

電子化された添付文書改訂のお知らせ (「使用上の注意」改訂のお知らせ)

2024-No.10

2024年11月

武田薬品工業株式会社

劇薬、麻薬、処方箋医薬品

アヘンチンキ「タケダ」

アヘン散「タケダ」

アヘン末

ドーフル散「タケダ」

アヘン末・トコン末

パシーフ[®]カプセル30mg

パシーフ[®]カプセル60mg

パシーフ[®]カプセル120mg

モルヒネ塩酸塩水和物「タケダ」原末

モルヒネ塩酸塩注射液200mg「タケダ」

モルヒネ塩酸塩注射液10mg「タケダ」

モルヒネ塩酸塩注射液50mg「タケダ」

モルヒネ塩酸塩水和物

パンオピン

パンオピン 皮下注20mg

アヘンアルカロイド塩酸塩

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

このたび、標記製品の電子化された添付文書（以下、電子添文）につきまして、使用上の注意等の記載内容を改訂しましたのでお知らせいたします。

ご使用に際しては、電子添文の各項を十分ご覧くださいますようお願い申し上げます。

弊社製品のご使用にあたって、副作用等の医療上好ましくない事象をご経験の際には、弊社までできるだけ速やかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

使用上の注意の改訂の概要

項	改訂内容
10.2 併用注意	(追加) クロピドグレル硫酸塩、チカグレロル及びプラスグレレル塩酸塩 ¹⁾

1) 自主改訂

詳細は次ページ以降をご覧ください

◆ 使用上の注意の改訂

使用上の注意の「10.2 併用注意」の項に“クロピドグレル硫酸塩”、“チカグレロル”及び“プラスグレレル塩酸塩”に関する記述を追記しました。

【改訂内容】（モルヒネ塩酸塩水和物「タケダ」原末* 改訂部分抜粋）

改訂前			改訂後		
10. 相互作用			10. 相互作用		
10.2 併用注意（併用に注意すること）			10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
（略）			（略）		
ブプレノルフィン	ブプレノルフィンの高用量（8mg 連続皮下投与）において、本剤の作用に拮抗するとの報告がある。	μ オピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害される。	ブプレノルフィン	ブプレノルフィンの高用量（8mg 連続皮下投与）において、本剤の作用に拮抗するとの報告がある。	μ オピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害される。
			クロピドグレル硫酸塩 チカグレロル プラスグレレル塩酸塩	左記の薬剤の血漿中濃度を低下させる可能性がある。	本剤の消化管運動抑制作用に関連すると考えられる。

部：追記（自主改訂）

*以下の製品についても同様の改訂を予定しています。改訂内容の詳細は各製品の電子添文をご参照ください。
モルヒネ塩酸塩注射液 10mg「タケダ」／モルヒネ塩酸塩注射液 50mg「タケダ」、モルヒネ塩酸塩注射液 200mg「タケダ」、パシーフカプセル 30mg／パシーフカプセル 60mg／パシーフカプセル 120mg、アヘンチンキ「タケダ」、アヘン散「タケダ」、ドーフル散「タケダ」、パンオピン、パンオピン皮下注 20mg

弊社の医療関係者向け情報サイト（<https://www.takedamed.com>）及び医薬品医療機器総合機構情報提供ホームページ（<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>）に最新の電子添文及び医薬品安全対策情報（DSU）が掲載されておりますので、ご参照くださいますようお願い申し上げます。なお、以下の GS1 コードを「添文ナビ」で読み取ることで最新の電子添文をご確認いただけますので、ご参照くださいますようお願い申し上げます。



(01)14987123148617

モルヒネ塩酸塩水和物「タケダ」原末



(01)14987123142615

パシーフカプセル30mg



(01)14987123003060

アヘン散



(01)14987123021248

ドーフル散



(01)14987123009710

パンオピン